

<ひとことアピール>

書き損じ葉書・年賀状のご寄付を
お願いします。

100枚で、二人のハイスクール生徒、
あるいは、
一人の国立大学生の支援ができます。



2003年1月20日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@my.catv.ne.jp

<http://www.246.ne.jp/~hands-ty/hands.html>

— A Happy New Year! —

— 新たに医療支援対象となったシラル・コミュニティの子ども達です。まもなく水道も完成します—



シラルは、蛇行する川を36回渡ってとり着くキアミから、さらに数キロ南に位置する戸数25、人口200人足らずの村です。

コーン栽培と山羊、鶏、アヒル飼育などで生計を立てていますが、水がないため、昨年の乾季には収穫がなく、糧を求めて大半の村人が町にでました。

教育を受けてない住民に職はなく、むなしく村に戻った住民からの要請で、8月にCMB/HANDSの医療・簡易水道支援(FIDR助成)が決まりました。

薬草栽培指導、回虫駆除もはじまりました。キアミと同じく、マラリア、デング熱患者の発生も多いところで水源から3kmのパイプ敷設には村人全員が参加しました。この村で力をあわせて生きていこうという連帯感を強めたようです。

<CMBヘルスプログラム担当・今年の抱負>— 昨年12月の訪問時インタビューから —

ジョジョ(CMBヘルスプログラム責任者・助産婦):

昨年に引き続き、各コミュニティにモデルトイレ(有機肥料用沈殿槽付)とモデル薬草園を作る。担当は各コミュニティのヘルスワーカー。資金には1世帯月30ペソのグリーンカード拠出金(地域医療保険料)を充当。

レスリー(アトゥモロック小学校教師・ヘルスワーカー兼務):

母親クラブの例会でも、薬草栽培の指導をしていきたい。自分のこどもも皮膚に脂肪の塊があるが、薬草で治すつもり。

(アトゥモロック小学校は、校舎の傍らによく手入れされた野菜畑、花壇、10種以上の薬草の畑があります)

<プログラム推進の担い手に手厚く — HANDSの医療支援、方針の再検討 —>

昨年は、モロ女性センターのナブサさんの事業を支援する中で、お金のかからない医療や病気の予防指導に意欲と能力あるヘルスワーカーを育てることが、巡回診療の回数を増やす以上に重要なことを学びました。幸いCMBの責任者も、伝統医療の見直し、ヘルスワーカーのレベルアップに意欲的です。今年の医療支援事業は、このようなプログラム推進の担い手に手厚くと、医薬品支援偏重を是正していきたいと考えています。ご意見をお寄せ下さい。(事務局)

おかげで戴帽式に参加できました。—パササンバオ診療所のサミヤさん—

国際ボランティア貯金配分金で実施中の、モロ女性と子どものための識字教育と医療・衛生研修が本格的に始まり、診療所責任者のナブサさんは大忙しです。

その留守を預かるのは大学の助産婦コース1年生のサミヤさん。ナブサさんの代わりにモロ地区の貧しい患者の相談にのっていますが、助手としての手当てだけでは、肝心の学業の継続が難しくなりました。助産婦コースは2年課程で、今年1月には実習が始まります。授業料納入延期など寛大に対応してくれた大学側も、戴帽式と実習を前に中断か継続かの選択を迫りました。

12月初めの地元郵便局の集まりで、二人と一緒に奨学金をというお申し出をいただきました。実習費その他奨学金会費で不足する分は、今回の現地訪問で事情を知った中田さんがご協力を申し出てくださいました。合計3名で支えていただいています。聡明で勤勉なアシスタントというナブサさんのお墨付きももらっています。期待に応えてくれることと思います。



戴帽式(12/14)後ナブサさんと